

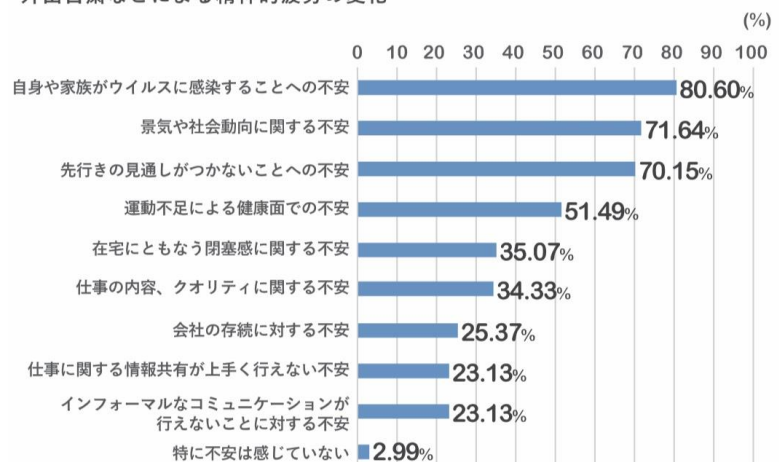
公開情報

調査者	株式会社オカムラ
情報ソースの刊行日	2020 年 4 月 20 日
情報ソースの調査日	
タイトル	新型コロナウイルス感染症対策としての在宅勤務調査
情報ソース	株式会社オカムラ 働き方コンサルティング事業部 ワークデザイン研究所
文献（URL 含む）	https://www.okamura.co.jp/company/wil-be/pdf/202004_FlexibleWorkReport.pdf
概要	調査対象 人数：162 名 （デザイナー、研究職、コンサルタント、事務職等） 調査方法：Web アンケート 調査機関：2020 年 4 月 5 日～8 日 集計方法：単純集計 主な調査内容 ・在宅ワークになることで勤務時間が減少した人 29.11%、増加した人 22.39%、変化なし 48.51% ・在宅勤務による精神的疲労の変化において増加した人 30.6%、減少した人 28.36%、変化なし 41.04% ・在宅勤務による肉体的疲労の変化において増加した人 25.38%、減少した人 44.03%、変化なし 30.60% ・在宅ワークのメリットとして誰にも邪魔をされずに仕事することが出来ると答えた人が 61.19%と 7 最も多かった
注目ポイント 考察	・会議、立ち話し等の時間が大幅に減少し、業務時間についやす時間が増加したことで勤務時間が減少したと考える。しかし、管理職に関しては今まで行っていない在宅勤務による労務管理等による業務負担が増加したのではないかと考える。日常業務に加え、在宅勤務者の管理は時間を要することであり、精神的ストレスも増加している可能性があると考ええる。 ・国土交通省のデータから、公共交通機関の利用者の減少に伴い通勤者が減少していることがわかる。通勤がなくなることで、肉体疲

労が減少することが予測される。今回のアンケートでも肉体疲労が減少している為、前述した内容が関与していると考ええる。また、通勤がなくなることによって睡眠時間等も確保でき、疲労回復も効率的におこなうことが出来るため肉体疲労が蓄積しにくいと考える。

・肉体疲労が減少しているのに関わらず、精神的疲労が増加していることが結果からわかる。コロナウィルスにより世界的な不況となっているのは、多くのメディアが報道している。今回、「自身や家族がウィルスに感染することへの不安」「景気や社会動向に関する不安」「先行きの見通しがつかないことへの不安」の3項目が回答理由として高い割合を示した。通勤時間や労働時間等が減少しても、前述したような不安がある為精神的な疲労が増加したと考える。

外出自粛などによる精神的疲労の変化



今回のアンケート結果から在宅勤務になったことで心理的、肉体的に変化がみられていることがわかった。コロナウィルスによる不安が経済活動にも影響を及ぼしていることがわかる。今回は、理学療法士が調査対象となっていないが介護保険分野や自費診療を営んでいる理学療法士は、今回のコロナによる被害で経済的に不安定な状態となっている可能性がある。介護予防分野で勤務している理学療法士の仕事が、今回の影響により減少していくリスクも考えられる。日本理学療法士協会、予防理学療法学会としてこのような方達の現状調査等が必要になってくるのではないかと考える。調査結果によっては、今後の活動や支援も検討していくことが必要になると考える。世の中の現状から考えると、運動や予防医療が必要となっているなかで、提供できる環境をなくしていくことを防ぐのが重要な課題であると考ええる。